

1 基本情報

施設名称	大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター訓練棟 【大阪市更生療育センター】
施設所管課・担当	福祉局心身障がい者リハビリテーションセンター管理課（担当：小林、李）
条例上の設置目的	身体に障がいのある方と障がいのある子どもの日常生活、社会生活の自立をめざし、それぞれの障がいに応じた専門的訓練や支援を行うこと。
業務の概要	(1)障がい者支援施設の管理・運営業務 地域生活を営むうえで身体機能および生活能力の維持・向上などの支援が必要な18歳以上の身体に障がいのある人、または高次脳機能障がいのある人を対象にした施設入所支援と、自立した日常生活・社会生活ができるよう一定期間身体機能・生活能力の維持向上のために必要な訓練を、専門スタッフにより支援を行う。 (2)福祉型児童発達支援センターの管理・運営業務 医師をはじめ理学療法士、言語聴覚士、保育士、心理士、看護師、ケースワーカーが連携したチーム方式で支援を実施。また、親子通園を通して家族全員が子どもの障がいを理解し受け止められるよう適切な情報提供や助言を行うとともに、地域社会に参加するための支援を実施。 (3)建物及び附属設備等の維持保全業務
成果指標	利用者の満足度及び当該施設の利用率
数値目標	ともに80%以上
指定管理者名	社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
評価対象期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	利用者の満足度	当該施設の利用率
数値目標	80%以上	80%以上
年度実績	94.7%	72.3%
達成率	118.3%	90.3%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比	備考
利用人数	9,193人	9,167人	26人	指定障がい者支援施設（生活介護・自立訓練）
利用率	75.7%	75.8%	△ 0.1%	
利用人数	11,473人	12,027人	△ 554人	指定障がい者支援施設（施設入所支援・短期入所）
利用率	78.6%	82.4%	△ 3.8%	
利用人数	5,726人	6,262人	△ 536人	福祉型児童発達支援センター
利用率	62.5%	68.4%	△ 5.9%	

3 収支状況

（単位：円）

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	1,848,095	0	1,848,095	光熱費の高騰に伴う補填
	計画	0	0		
利用料金収入	実績	233,194,458	244,117,655	△ 55,558,542	新型コロナウイルス感染症による利用者数の減
	計画	288,753,000	288,753,000		
その他収入 （自主事業収入）	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
合計	実績	235,042,553	244,117,655	△ 53,710,447	
	計画	288,753,000	288,753,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	170,470,512	179,283,190	△ 25,505,488	退職等による人件費の減
	計画	195,976,000	197,602,000		
物件費	実績	64,653,183	64,766,345	△ 28,123,817	新型コロナウイルス感染症による利用者数の減
	計画	92,777,000	91,151,000		
その他事業費 （自主事業支出）	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
合計	実績	235,123,695	244,049,535	△ 53,629,305	
	計画	288,753,000	288,753,000		

4 管理運営状況の評価（１次評価）

（１）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
利用者の満足度80%以上	118.3%	A	新型コロナウイルス感染症への対策として、更生部門・療育部門ともにグループでの活動を制限したり、利用導線等を制限する必要があり、利用者に不便を強いることもあったが、その分個人の特徴に合わせた訓練を提案する等によりサービスの質を維持し、目標値である80%を超えることができた。また、更生部門に関しては、昨年度のモニタリングにて利用者からいただいたご意見を真摯に受け止め、改善した結果、利用満足度が大幅に上昇した。双方の利用満足度の平均値により達成率を求め、左記の評価とする。
当該施設の利用率80%以上	90.3%	B	令和4年度も引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、利用者やその周囲への感染、また自主的な利用自粛のため、全体的に利用率が低下した。施設全体の利用率は目標に達していないものの、社会情勢を鑑みて本市が求める水準を満たしていると判断できるため、左記の評価とする。

（２）市費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
収入においては実績が予算に達しなかったものの、経費縮減等に努めた結果、支出においては実績が予算を下回っており、市費の縮減に積極的に取り組んだ。 物価高騰・光熱費上昇の影響を受け、収支決算は若干の赤字となった。	B	令和4年度における光熱費等の高騰は未曾有の上昇水準であり、事前に想定しうる影響範囲を超えていた。当センターにおいても例外なく影響を受け、本市からも補填を行ったものの、社会情勢を鑑みて本市が求める水準を満たしていると判断できるため、左記の評価とする。

（３）管理運営の履行状況

評価項目		評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上			
	施設の管理運営	B	業務チェックシートを用いた月次報告、年2回の实地調査の内容等によって適切に管理運営されていると認められるため左記の評価とする。
	事業計画の実施状況	B	業務チェックシートを用いた月次報告、年2回の实地調査の内容等によって適切に管理運営されていると認められるため左記の評価とする。
	施設の有効利用	B	業務チェックシートを用いた月次報告、年2回の实地調査の内容等によって適切に管理運営されていると認められるため左記の評価とする。

社会的責任・市の施策との整合性	B	業務チェックシートを用いた月次報告、年2回の实地調査の内容等によって適切に管理運営されていると認められるため左記の評価とする。
-----------------	---	---

5 利用者ニーズ・満足度等

○指定障がい者支援施設 調査方法：アンケート 回答者数：対象者数 51 回答数42 割合 82.4％ 質問項目：説明の分かりやすさ、満足度、職員の対応、障がいに対する理解度、要望の聴取、給食について、等 結 果：満足度について抜粋「満足57.1％」「ふつう35.7％」「不満4.8％」「無記入2.4％」 （参考）：令和3年度の結果「満足59.5％」「ふつう21.4％」「不満16.7％」「無記入2.4％」
○福祉型児童発達支援センター 調査方法：アンケート 回答者数：対象者数 90 回答数 57 割合 63.3％ 質問項目：環境・体制整備、適切な支援の提供、保護者への説明等、非常時の対応、満足度、等 結 果：満足度について抜粋「満足93.0％」「どちらともいえない3.5％」「不満3.5％」「未記入0.0％」 （参考）：令和3年度の結果「満足90.8％」「どちらともいえない3.1％」「不満4.6％」「未記入4.6％」

6 外部専門家意見

利用率・満足度についてはおおむね目標を達成しており、適切な支援・対応ができていると評価できる。利用者確保や入所者の疾病管理の面から、医療機関との連携については現状維持に加え、更なる工夫に期待する。また、施設の老朽化は避けられない課題であるため、施設の維持管理や未改修箇所に対する一層の配慮に努めてもらうのはもちろんのこと、優先順位をつけるなど関係部局と計画的な改修工事を検討していただきたい。負担の多い現場ではあるが、人材確保に努めていただき、現状のサービス維持に期待する。 コロナ禍にあって、クラスターの発生を防いでこられたことは、職員の不断の努力が伺え高く評価している。施設の特性も踏まえ、引き続き新型コロナウイルス感染防止に努めていただきたい。
--

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	B	コロナ禍における利用者の感染や利用の自粛がある中で利用率や満足度の水準を保ったことは評価できる。
市費の縮減	B	収支決算は赤字となったものの、情勢を鑑みるとやむを得ない側面があり、指定管理者は支出の抑制に努めたといえる。
管理運営の履行状況	B	適切に管理運営されており、おおむね事業計画及び本市の定める水準どおりの効果が得られた。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	おおむね事業計画及び本市の定める水準どおりの効果が得られた。